

大学ラグビー コンプライアンスに関するアンケート

2026年8月6日
日本ラグビーフットボール協会
インテグリティ推進部門

大学ラグビーコンプライアンスアンケート結果

【期間】2026年6月17日～6月30日（14日間）

【対象】JRFUに登録している全ての大学ラグビー部（計272チーム）

管理者、指導者、選手・スタッフ等の登録者（計11,785人）

【目的】大学ラグビー部におけるコンプライアンス状態と取り組み状況の把握

【方法】Microsoft Forms（アンケートフォーム、無記名式）

- ①JRFUからチーム管理者宛メールにて、チーム内での展開を依頼
- ②支部協会から各ラグビー部の主務、学連・リーグの関係者等に展開を依頼

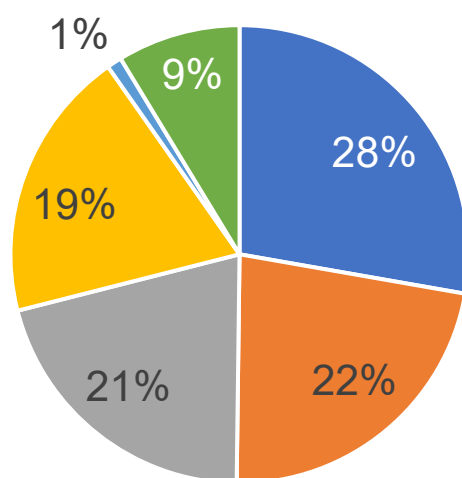
【URL】<https://forms.office.com/r/KA6C99DMck>

大学ラグビーコンプライアンスアンケート結果

【回答】1,243人 ※ 以下、回答率は小数第2位を四捨五入

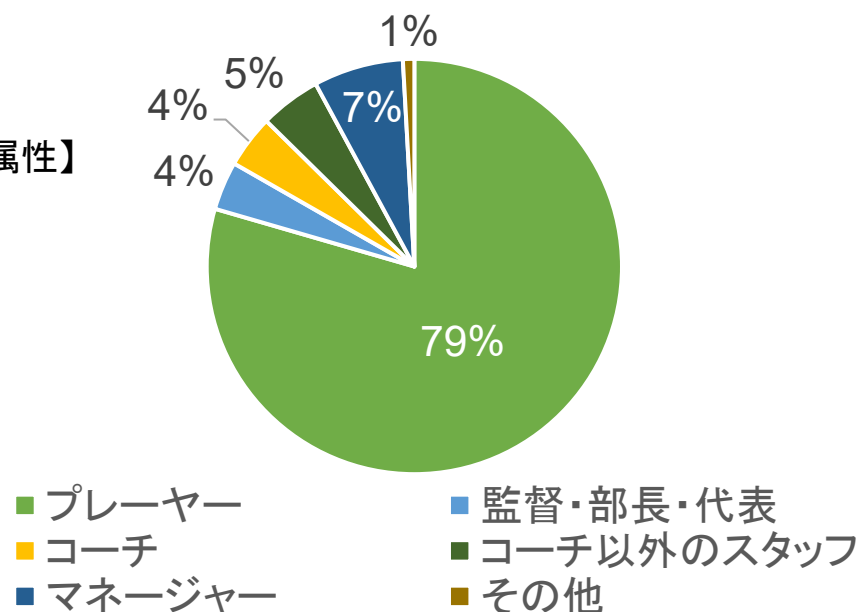
支部	登録者数	回答者数	回答率
関東協会	6,364	560	8.7%
関西協会	4,446	543	12.2%
九州協会	975	140	14.3%
合 計	11,785	1,243	10.5%

【年代】



■ 1年 ■ 2年 ■ 3年 ■ 4年 ■ 5年生以上 ■ 学生以外

【属性】



■ プレーヤー ■ 監督・部長・代表 ■ コーチ ■ マネージャー ■ コーチ以外のスタッフ ■ その他

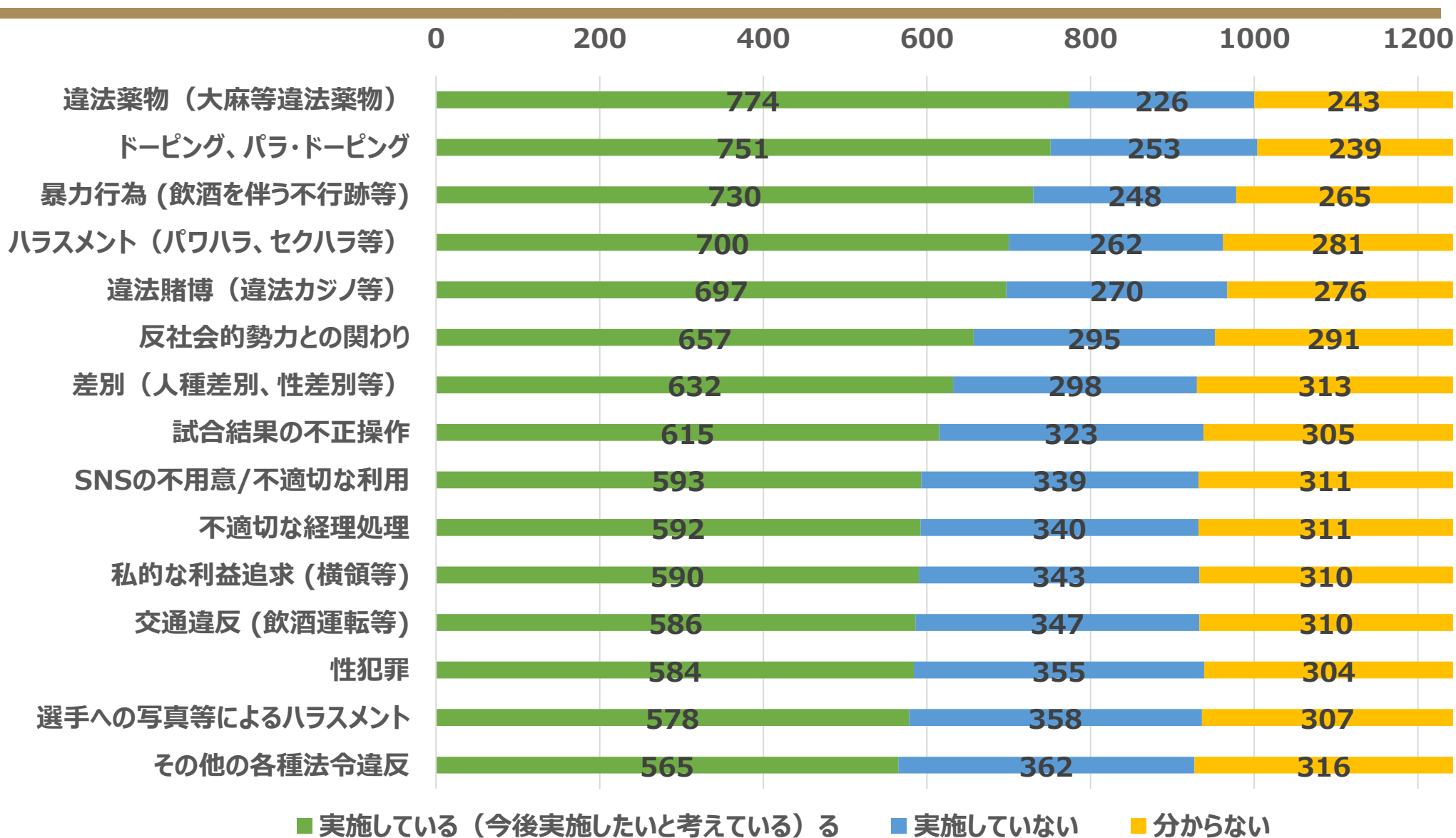
自チームで注意しているコンプライアンス事案について



自チームで注意しているコンプライアンス事案について

	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
1位	暴力行為 (飲酒を伴う不行跡等)	交通違反 (飲酒運転等)	違法薬物 (大麻等違法薬物)	違法薬物 (大麻等違法薬物)
2位	SNSの不適切な利用	SNSの不適切な利用	交通違反 (飲酒運転等)	交通違反 (飲酒運転等)
3位	違法薬物 (大麻等違法薬物)	違法薬物 (大麻等違法薬物)	暴力行為 (飲酒を伴う不行跡等)	暴力行為 (飲酒を伴う不行跡等)

自チームの注意喚起や研修等の実施状況



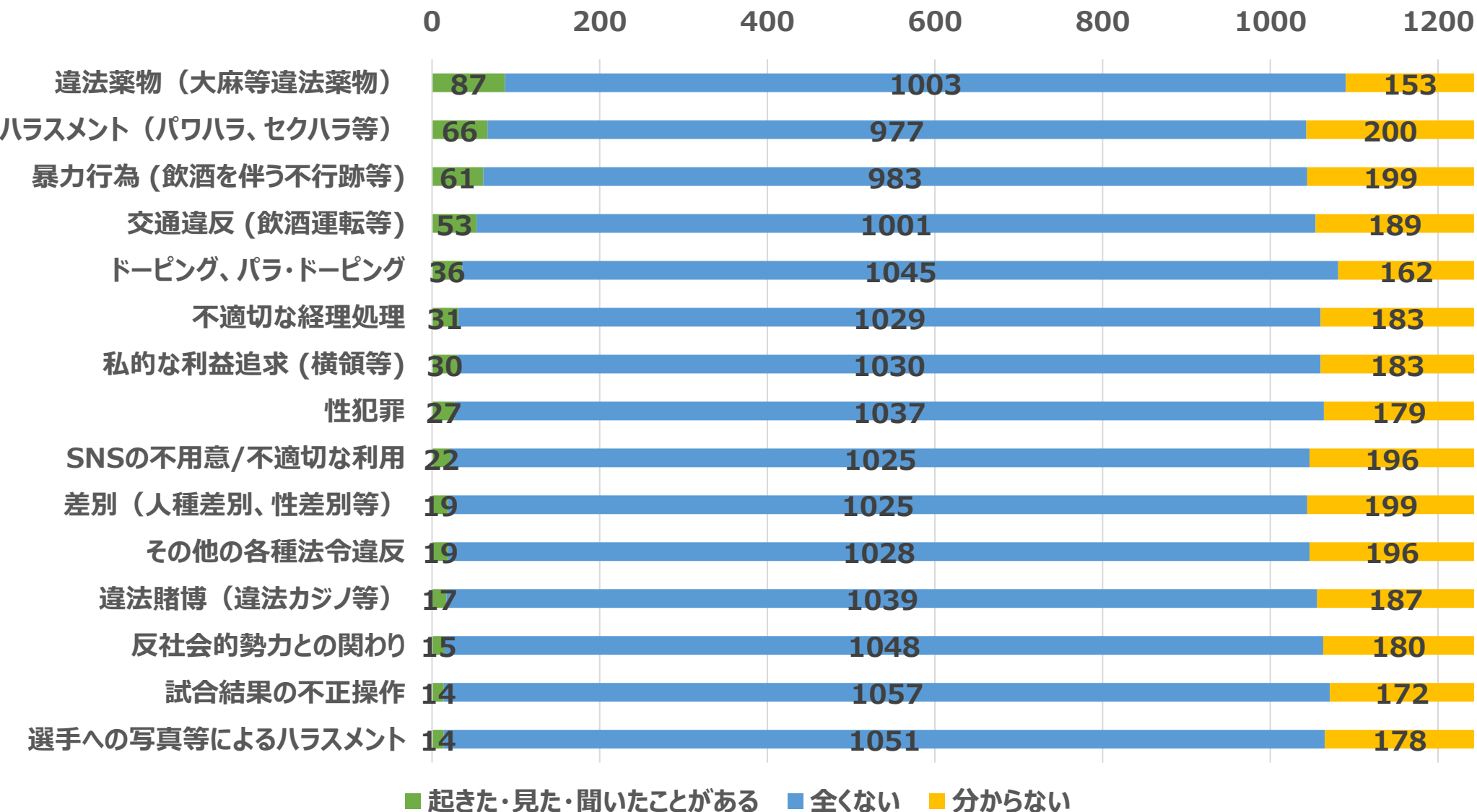
自チームの注意喚起や研修等の実施状況

	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
1位	ドーピング、パラ・ドーピング	SNSの不適切な利用	違法薬物 (大麻等違法薬物)	違法薬物 (大麻等違法薬物)
2位	違法薬物 (大麻等違法薬物)	暴力行為 (飲酒を伴う不行跡等)	ドーピング、パラ・ドーピング	ドーピング、パラ・ドーピング
3位	SNSの不適切な利用	ドーピング、パラ・ドーピング	暴力行為 (飲酒を伴う不行跡等)	交通違反 (飲酒運転等)

自チームの注意喚起や研修等の具体的な取り組み内容

- ・ 実際に起こった他チームの事例の紹介、実際に起こりうる危険性の確認ミーティング
- ・ OB等の有識者（弁護士・警察・栄養士等）を招いた研修会の実施
- ・ チーム内ミーティングやグループディスカッションの実施
- ・ チーム規則の制定
- ・ 指導者からの適時適切な注意喚起
- ・ 各種研修会（大学・協会等主催のもの）への参加
- ・ SNSへの投稿前の確認体制の整備

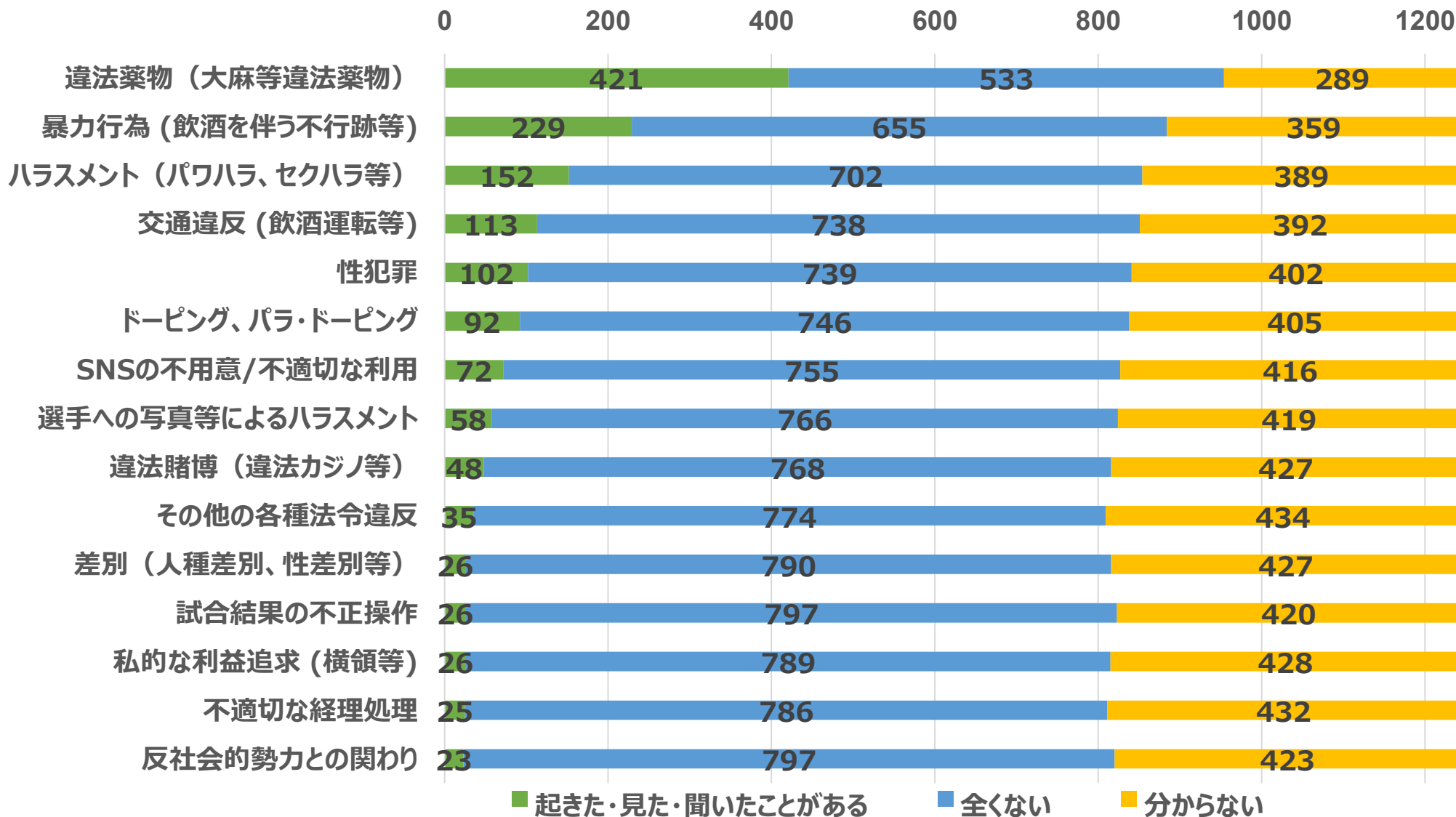
チーム内で過去3年以内に起きた・見た・聞いた コンプライアンス違反事案について



チーム内で過去3年以内に起きた・見た・聞いた コンプライアンス違反事案について

	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
1位	違法薬物 (大麻等違法薬物)	交通違反 (飲酒運転等)	違法薬物 (大麻等違法薬物)	違法薬物 (大麻等違法薬物)
2位	暴力行為 (飲酒を伴う不行跡等)	ハラスメント (パワハラ等)	ドーピング、パラ・ドーピング	ハラスメント (パワハラ等)
3位	ハラスメント (パワハラ等)	暴力行為 (飲酒を伴う不行跡等)	暴力行為 (飲酒を伴う不行跡等)	暴力行為 (飲酒を伴う不行跡等)

他チームで過去3年以内に起きた・見た・聞いた コンプライアンス違反事案について



他チームで過去3年以内に起きた・見た・聞いた コンプライアンス違反事案について

	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
1位	違法薬物 (大麻等違法薬物)	違法薬物 (大麻等違法薬物)	違法薬物 (大麻等違法薬物)	違法薬物 (大麻等違法薬物)
2位	暴力行為 (飲酒を伴う不行跡等)	暴力行為 (飲酒を伴う不行跡等)	ドーピング、パラ・ドーピング	暴力行為 (飲酒を伴う不行跡等)
3位	ハラスメント (パワハラ等)	ハラスメント (パワハラ等)	暴力行為 (飲酒を伴う不行跡等)	ハラスメント (パワハラ等)

自チーム内におけるヒヤリハット事例

- ・ 所属部員に対する退部勧告
- ・ 未成年飲酒等
- ・ 道路交通法違反
- ・ 夜間の騒音問題の発生
- ・ SNSの不適切利用
- ・ 過度な罰走や水を飲ませないなどの不適切な練習
- ・ 会計担当者の不適切な配置や不適切会計
- ・ いじり・いじめ ・試合中の煽り ・性問題

薬物問題について、所属チームや他チームにおいて実際に起きた・見た・聞いたことのある事例

- ● 大学や ▲ ▲ 高校における違法薬物に関する逮捕
- × × 大学での大麻栽培疑惑
- 違法薬物疑惑の隠ぺい
- 元部員が薬物所持により逮捕された。

暴力・ハラスメント等の各種問題について、所属チームや他チームにおいて実際に起きた・見た・聞いたことのある事例

【暴力・ハラスメント等】

- ・ 指導者による暴言や暴力等を含むパワハラ
- ・ 先輩やOBから後輩に対するいじめ・退部勧告等
- ・ 喧嘩（部員同士や試合中の他チームとの喧嘩も含む）
- ・ セクハラの発生
- ・ 飲酒の強要等のアルハラ

【その他】

- ・ SNSの不適切な利用
- ・ 不適切なトレーニング
- ・ 不適切な男女交際
- ・ スタッフへの給料未払い
- ・ 不適切な経理処理
- ・ 急性アルコール中毒の発生

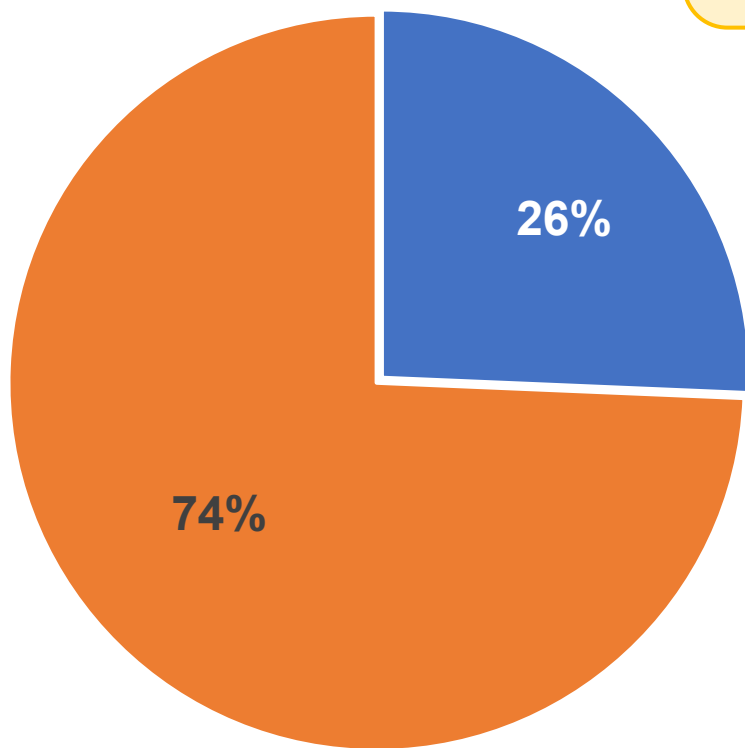
風通しのよいチーム（組織）作りのために、取り組んでいる事項について

- ・ 縦割り等の少人数グループを作ることにより、関係性を強化するとともに、意見の言いやすい環境を整える。(ブラザー・ファミリー制度等)
- ・ 寮で各年代を交えた部屋割りとする
- ・ 報連相の徹底
- ・ 定期的なミーティングの開催や積極的なコミュニケーション
- ・ 1対1での対話や、監督・コーチ・スタッフと選手の対話の機会を作り、意見を言うことができる機会を作る。
- ・ チームルール等を作るとともに、学生間の強い上下関係を生まないように注意する
- ・ ポジションや学年に関わらず積極的にかかわりを持つ
- ・ オフフィールドでもかかわりを持つ
- ・ 意見箱・目安箱の設置

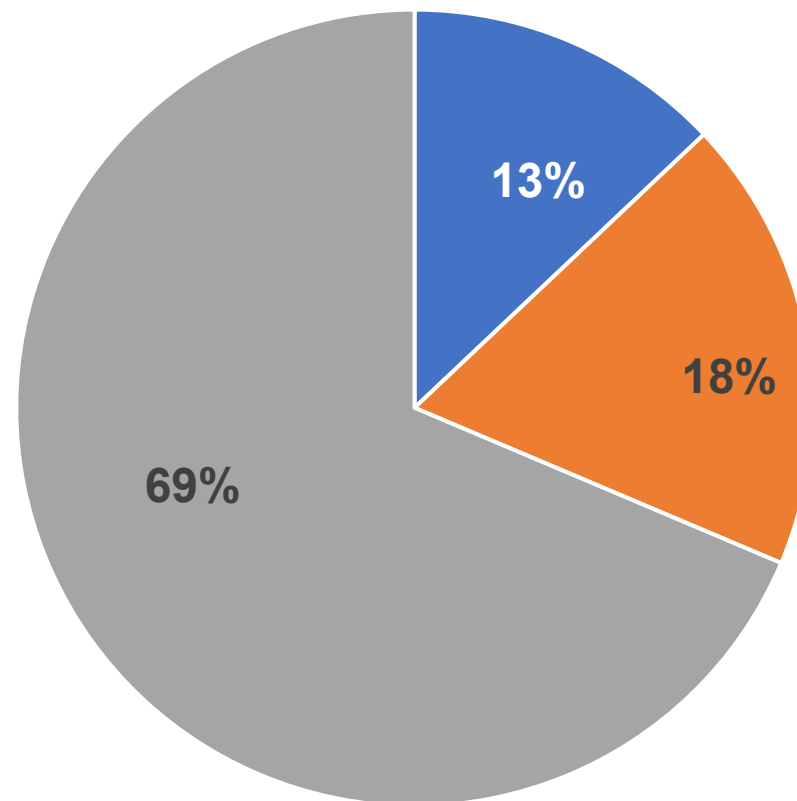
日本協会の取組みの認知度について

「インテグリティ相談窓口」、「インテグリティ追求HP」ともに認知度が低い結果となった。

【インテグリティ相談窓口】



【インテグリティ追求HP】



■ 知っている ■ 知らない ■ 閲覧したことがある ■ 知っているが、まだ閲覧していない ■ 知らなかった

日本協会に対する意見や要望等（コンプライアンス遵守関連）

- ・ チームでのコンプライアンス研修用コンテンツの提供
- ・ チームの実情把握・視察
- ・ 各大学におけるコンプライアンス体制の整備状況の公表
- ・ 平時からのコンプライアンスに関する注意喚起
- ・ 暴力等に対する罰則の強化
- ・ コンプライアンス研修会等の定期開催
- ・ 各地域でのコンプライアンス研修会の開催及び積極的な参加勧奨

アンケート結果を踏まえた現状と今後の課題

アンケート結果を踏まえた現状と今後の課題

- ・ 今回のアンケート結果では、直近発生した薬物問題への関心が高く、多くの大学で具体的な研修の実施に取り組まれている様子が伺えた。
- ・ その一方、ヒヤリハット事案として、暴力行為や道路交通法違反、不適切な会計、いじめ、セクハラ等のハラスメントが存在することが分かった。
- ・ また、当該ヒヤリハット事案についての「対処方法」や「通報先」が分からないという声があり、以下の対策が必要であることが分かった。
 - 不祥事対応の手引きの整備（対処方法の明確化のため）
 - インテグリティ相談窓口の認知度向上（通報先の周知のため）
- ・ 併せて、コンプライアンス意識向上に取り組んでいる大学が多く見られた一方、具体的な研修方法が分からない、研修コンテンツがないなどの悩みも見受けられた。

アンケート結果を踏まえた日本協会からのお願い

アンケート結果を踏まえた日本協会からのお願い

【①コンプライアンス体制の整備について】

- ・ 今回のアンケートを通して、大学ラグビー部には、具体的な不祥事案のほか、多くのヒヤリハット事案が発生していることが判明した。
- ・ このような状況を踏まえ、コンプライアンス研修問題発生防止や発生時の迅速かつ的確な対応のため、コンプライアンス対応責任者の設置をいただきたい。
- ・ 併せて、事案発生時の対応として、添付の「大学ラグビー不祥事発生時対応手順ガイド」を参照いただき、体制整備に努めていただきたい。

アンケート結果を踏まえた日本協会からのお願い

【②コンプライアンス研修の計画・実施】

- ・ 前スライドのコンプライアンス体制の整備に加え、当該責任者主導のもと、コンプライアンス研修を実施いただきたい。
- ・ 同研修の実施に当たっては、日本協会主催の「インテグリティ推進講習会 ※」や、「一般教養プログラム」、「違法薬物防止プログラム」を活用するほか、OB等の有資格者を招く講習会や大学主催の講習会、大学スポーツ協会（UNIVAS）の活用が考えられるので、適宜活用いただきたい。

※ <https://www.rugby-japan.jp/jrfu/integrity#integrity-lectureclass>

- ・ なお、インテグリティやコンプライアンスに係る研修等の相談は、日本協会インテグリティ推進部門に連絡してください。

メールアドレス：integrity_division@rugby-japan.or.jp

アンケート結果を踏まえた日本協会からのお願い

【③インテグリティ相談窓口の活用】

- 大学ラグビー部におけるヒヤリハット事案等への対処方法や通報先が分からないという声も見受けられたことから、JRFUインテグリティ相談窓口の周知と活用を進めていただきたい。

日本協会ホームページ（トップページ下部）



https://www.rugby-japan.jp/support_center/

- 併せて、各大学ラグビー部内にも独自に相談を受け付ける体制（前述①のコンプライアンス対応責任者の設置など）を整備すること、そして大学自身が提供している相談窓口を部員へ周知徹底いただきたい。